



メールマガジン：自然をおそれず、あなどらず



発行：県教育庁保健体育課・沖縄气象台

東日本大震災から10年 ～津波から命を守る行動～

東北地方の沿岸を大津波が襲い多くの方が犠牲となった「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震（以下、「東日本大震災」）」から、まもなく10年を迎えます。

東日本大震災直後には津波から命を守るための行動やその備えを各方面からいろいろな伝えられ学んできましたが、今後、東日本大震災を知らない世代へもその教えを引き継いでいく必要があります。10年という節目を機会に、あらためて東日本大震災について考え、今一度、津波から命を守るための対応について確認しましょう。

東日本大震災で、大津波に襲われた岩手県釜石市では学校にいた子供たちが、率先して高台へ避難し、結果として住民を巻き込みより多くの方が津波から命を守ることができました。これは長年にわたっての防災教育で培われた、群馬大学大学院の片田敏孝教授（当時）が提唱する「津波避難の3原則」の教えを実践したことによるものです。この教えは、全国各地の津波対策の取組でも広く紹介されています。

「津波避難の3原則」

○想定にとらわれるな！

ハザードマップでは安全とされた場所であっても、想定にとらわれず避難すること。

○最善をつくせ！

最初に避難してきた場所が安全と考えるのではなく、もっと高い場所を目指すなど、その時できる最善の行動をとり避難を続けること。

○率先避難者たれ！

いざというとき、人はなかなか「逃げる」という決断ができないが、自分が率先して避難することで周囲の人も同調して避難することにつながり、結果的に多くの人を救うことになる。

私たちの住んでいる沖縄地方は周りを海に囲まれており、地震・津波に対する備えが必要です。地震・津波は突然襲ってきますので、いざという時の避難行動を考えておくことが大切です。津波から命を守る行動を忘れず、日頃の訓練や防災対策を通して、災害から自分の命を守る力を養いましょう。

《津波から身を守るために ～津波警報等を見聞きしたらすぐに避難!!～》

解除まで気をつけて

注意報でも海中は危険

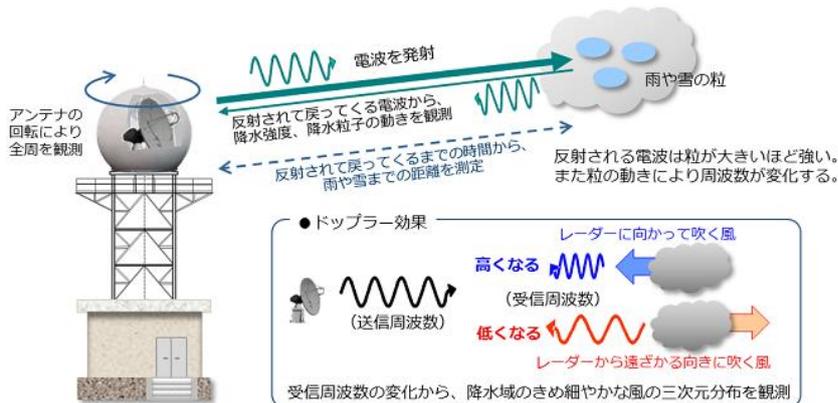
正しい情報を入手



気象レーダーのしくみ ～雨雲はどのように観測している？～

テレビのニュース等の天気コーナーで「雨雲の状況」をご覧になるとと思います。雨雲の状況は天気予報とともに気になる情報です。雨雲はどのように観測しているのでしょうか？そのしくみをご紹介します。

雨雲は、気象レーダーと呼ばれるパラボラアンテナで観測しています。アンテナは回転しながら電波（マイクロ波）を発射しています。雨や雪の粒に当たると電波は反射され、アンテナに戻ってきます。この時、電波が戻ってくるまでの時間から雨や雪までの距離を、戻ってきた電波（レーダーエコー）の強さから雨や雪の強さを観測します。また、戻ってきた電波の周波数のずれ（ドップラー効果）を利用して、雨雲の動き、つまり上空の風を観測することができます。気象庁では気象レーダーを全国 20 か所（沖縄県内には、南城市糸数と石垣島の於茂登岳の 2 か所）に設置しています。



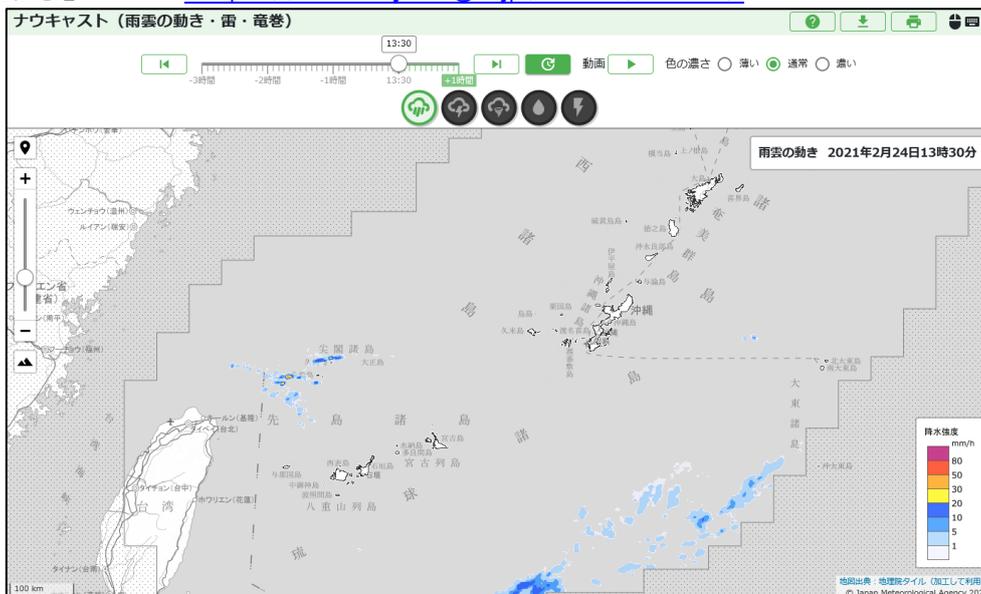
気象レーダーによる観測の概要



沖縄気象レーダー(南城市糸数)

気象レーダーは、休むことなく常に観測しています。雲がまったくない快晴の時であっても、いつ雨雲が発生しても見つけられるよう、気象レーダーは監視を続けています。観測したデータは、アメダスの観測データと合成して、現在の雨雲の様子や、今後の降水・雷の予想などに活用しています。気象庁ホームページでは「ナウキャスト（雨雲の動き・雷・竜巻）」で、随時データを提供しています。

「雨雲の動き」 <https://www.jma.go.jp/bosai/nowc/>



雨雲の動き 2021年2月24日13時30分

メールマガジンで取り上げてほしいテーマや、各学校で行った防災に関する取組などがありましたら、次の連絡先までご連絡をお願いします。

沖縄県教育庁保健体育課
学校安全・給食班
沖縄気象台防災調査課 山口 直輝

TEL : 098-866-2726
Email : aa316008@pref.okinawa.lg.jp
TEL : 098-833-2186
Email : yamaguchi@met.kishou.go.jp

